

滋賀県がん診療連携協議会・第2回緩和ケア推進部会

日時：平成21年10月26日（金）午後5時～

場所：成人病センター新館11階 会議室

出席者：20名 うち部会員 17名

〔部会長〕成人病センター 堀主任部長

〔副部会長〕公立甲賀病院 沖野副院長、彦根市立病院 黒丸部長

〔部会員〕滋賀医大医学部附属病院 今堀看護師長、大津赤十字病院 三宅部長、大津赤十字病院 川合看護師、成人病センター 辻森看護部主査、公立甲賀病院 柴田看護師長補佐、彦根市立病院 秋宗科長補佐、市立長浜病院 花木部長、市立長浜病院 宮崎看護師、ヴォーリス記念病院 細井部長、ヴォーリス記念病院 岡田師長、岩本整形外科 岩本院長、社団法人滋賀県薬剤師会（ヴォーリス記念病院）古武薬局長、滋賀県がん患者団体連絡協議会 北川、滋賀県がん患者団体連絡協議会 岡崎運営委員 代理池田

〔滋賀県健康推進課〕加賀爪主査

〔事務局〕成人病センター医事課 谷口、経営企画室 沼波

〔欠席部会員〕滋賀医大 遠藤教授、大津市民病院 津田部長、大津市民病院 北林看護科長、社団法人滋賀医師会 猪飼理事、社団法人滋賀県看護協会（滋賀県済生会）九里統括所長、滋賀県南部健康福祉事務所 三上主席参事

議題（調査表の調査項目）

1 医師対象緩和ケア研修会（単位型統一研修要領）

（堀部会長）

単位型統一研修であれば、開業医の先生方にとっては受講しやすい。勤務医も、二日間連続で行くつもりだったけれども、二日目は、患者さんの容態が悪くて行けなかったとなると修了証がもらえない。しかし、この方法だと連続して受けなくても、B研修をもう一回受けなおせば、修了証書がもらえることになる。フレキシビリティもあがるので、単位型統一研修でいきたい。

もちろん、各病院は、今までどおり、一般型のような形で二日間連続して開催することも可能です。参加する先生方は、これまでよりも受けやすくなります。

また、単位型にすると、各病院で同じカリキュラムでやらなければいけない。統一プログラム案のA研修では疼痛コントロール、全人的な緩和ケア概論とがん性疼痛、オピオイドに関するものと、呼吸困難に関するものにまとめています。

B研修では、午前中に消化器症状、地域連携と治療・療養の場の選択を、午後に精神症状とコミュニケーションロールプレイングをまとめています。このようにしたのは、緩和ケア研修では精神腫瘍の研修を受けた精神科医が講義をしなければならないことから、今までは朝から晩まで精神科の先生に来ていただかなければならず、滋賀医大の森田先生等の負担が非常に大きかった。

統一研修プログラム案では、精神科の先生の負担をできるだけ減らし、B研修の午後の半日だけ来ていただければというカリキュラムにしています。

今後は各病院とも、このプログラムでやっていただきたい。

両日とも9時から17時半くらいまでになるので、今まで土曜日の午後からスタートしていたところは、申し訳ないがプログラムの変更をしなければいけない。

成人病センターは、日曜日・日曜日と連続でやっています。開業医の先生は、土曜日に夜診をやっている方もいらっしゃいますので、日曜日・日曜日のほうが良いのではないかと考えていますが、各病院のご都合などもあるでしょうし、土日でも構わないと考えています。

ご異議がなければ、このプログラムでお願いしたいと思いますが、ご意見ありましたらお伺いします。

(大津日赤 三宅部会員)

「その前後問わない。」と書いてあるのは、先にB研修を受けて、二回目A研修を受けてもよいということか。

ある程度、緩和ケアをわかっている方はいいかもしれないが、そうでなければ概論がわからないまま、先にBで、特に精神症状のロールプレイでやることになる。難しいと思うが。

(堀部会長)

注釈に「A、Bの順で受けるのが望ましい。」ということを入れることにしたいと思います。

可能な限りA、Bの順に受けることとし、Aを先に受けようと思っていたが、患者さんが悪くていけなかった場合などに、OKということにしたいと思います。

(ヴォーリズ記念病院 細井部会員)

成人病センターのAで、次は大津赤十字病院のBでもいいわけですか。

(堀部会長)

そういうことです。資料に修了証書の様式がありますが、修了証書は、二回目の病院、最後に受講した病院で渡すことになります。

(事務局)

修了証書は、以前と様式を変え、病院長の名前は取りたい。

理由は、単位型研修というのは、滋賀県として実施するものだからです。この後、県庁の加賀爪主査から厚生労働省に承認手続きに入ります。

(堀部会長)

よろしいでしょうか。

確かにA病院とB病院というふうに、受講する病院が違うことになったとき、片方の病院長名だけではおかしい。滋賀県知事と厚生労働省健康局長の名前が入るものになるということで、了解願います。

(岩本部会員)

例えば、A研修を7月にある病院で受けましたと。B研修を12月にある病院で受けましたというのは、少し間が空きすぎるのではないかと懸念があります。また、地域連携に関しても項目というのがありますが、例えば湖北と大津では、同じような地域の状況ではないがどうか。

(堀部会長)

恐らく、大津赤十字病院で受けて、次に長浜というのは少ないと思う。単位型統一研修は病院が変わっても受けられ、たくさんの人に参加していただきたいという趣旨のものです。出来るだけ近い地域で受けてくださいという注釈を入れてもいいと思う。

研修内容も地域連携の一般的な内容であって、具体的に何病院がどうのとかいうことではないので、問題ないと思います。

(堀部会長)

申し込み後にもし都合悪くなれば、日をずらすことも可能ですし、今まででしたら、A日程B日程を連日受けようと思っていたけれど、もう一日が、患者さんの容態が悪くて受けられないと修了できないことになる。そういうことはなくなるので、受けやすくなると思います。

(部会員)

プログラムの注3ですけれども、『「研修会の開催にあたって」「アイスブレイキング」を省略することができる。』というのがあるが、例えば2回目にBを受ける方はその二つは受けなくてもよいということですか。

(事務局)

A研修の参加者と同じメンバーでB研修を実施する場合で、B研修から参加する人がいなかったケースを想定している。Bを初めて今回受けるけど、Aも受けてないから、中身が全然わからないという人の場合は、1名でもやらせてもらうということです。

(県健康推進課 加賀爪主査)

省略した時の時間数は、大丈夫ですか。

(事務局)

アイスブレイキングの時間数は、研修時間に含めていますが、参加者が同じ場合、2回目をする必要がないということです。

(堀部会長)

この方式で、来年度1年間やって、問題が出てきたら、その時は修正しながらしていくということで行きたいと思います。ほかに何かあればどうぞ。

(事務局)

この研修は、医師“等”という言葉を入れています。これは薬剤師さん、看護師さんが、この研修と一緒に受けることを想定しています。

この場合の修了証書は、資料にもあるように知事名だけの修了証書を出すことを考えています。医師を最優先し、枠が空いた場合や、実際協力いただいている薬剤師さんとか看護師さんに修了証書を渡したいという趣旨のものです。

(堀部会長)

今まではファシリテーターで参加していただいたコメディカルの方には、修了証書が出ませんでした。これからは、コメディカルでファシリテーターに参加していただいた方には、この修了証書を発行出来るようにしました。ただし、医師向けの研修なので医師を最優先に、枠が空いたときにコメディカルも入れるという方針でやっていただきたいと思います。よろしいでしょうか。

(堀部会長)

また、資料の受講証明書ですが、これはAかBを受講しましたという証明書です。例えばAを4月に受けて、Bを10月に受けたい場合、Aの証明書を持っていけば、Aの受講が免除されることとなります。

(患者団体連絡協議会 北川部会員)

こういう研修を続けていかれるという部分については、是非、見学だけでもさせていただきたいなという思いなのですが、見学だけでもさせていただいてよろしいですか。

(堀部会長)

今までもいろんな方に見に来ていただいているので、それは許可しています。

(堀部会長)

次に研修日程が重なってはいけないので、各病院の開催日を出来たら今日決めたいと思います。まずは、21年度ですが、成人病センターは6月14、21日と1月17、24日に2回目を行います。

(大津日赤)

大津赤十字病院は、7月11、12日と、3月にもう2回目を考えています。

(市立長浜病院)

21年度の2回目が1月23、24日に決まりました。

(公立甲賀病院)

先週金曜日にチームで会議をした際に、大津赤十字病院さんと重なるのですが、21年度の2回目を3月の6、7日あたりでほぼ決まった。

(堀部会長)

それでは、22年度ですが、出来るだけ、今年度中にもだいたいのスケジュールを立ててしまいたいのですが、おおまかなところを決めておいて、実際決まったとなれば、その時に重ならないようにまた調整するというのでやってみたい。同じ月の開催となる場合もあると思います、最終的には週をずらして開催してもいいと思います。毎月どこかでやっているという形に出来るといいのですが。

(堀部会長)

成人病センターは、22年の4月と11月にやらせてもらいたい。他のところで、11月にやりたいとい

うことであれば、11月前半でやる後半でやるということで調整したいと考えています。

(市立長浜病院)

21年度は6月にやっているのでも22年度も6月にやらせていただければ。2回目はたぶん12月になります。

(大津赤十字病院)

大津赤十字病院は、22年度第1回が7月というのは候補に挙がっている。ただ、2回目は、まだ決めてはなかったが、2回目を2月で調整してみます。

(彦根市立病院)

22年9月を考えています。

(滋賀医科大学附属病院)

1回はさせていただきたいと遠藤も言っていたのですが、日程的には、まだいつという話までは出来ていない。

(堀部会長)

22年の10月とかは無理ですか。

(滋賀医科大学附属病院)

そうですね。10月で打診があったということで、持って帰ります。

(公立甲賀病院)

22年度に関して、21年度と同じく9月にするかどうかまではお答えは出来ないのですが。

21年度の2回目を3月に行うので、22年度の早い時期には持ってこれない。

(堀部会長)

公立甲賀病院は、21年度に2回もやっていただけるんですね。本当にありがたいことです。

今決まっているところだけ、もう一回言います。

22年4月が成人病センター、6月が市立長浜病院、7月が大津赤十字病院、9月が彦根市立病院、10月が滋賀医科大学附属病院、11月が成人病センター、23年1月に市立長浜病院、2月が大津赤十字病院、というところまで今、決まりました。

(堀部会長)

出来るだけ、今年度中に、日程まで決めたいと思いますので、ご報告いただけますでしょうか。

よろしく願いいたします。

次回の部会で報告。

2 看護師対象緩和ケア研修会

(堀部会長)

次は看護師対象の緩和ケア研修会の議題です。

(成人病センター 辻森部会員)

緩和ケアの看護師研修を企画するということで、緩和ケア推進部会員のうち看護師メンバー5人で話し合いを持ちました。

研修企画をどのようにしていくかということで、審議をした結果、継続して研修を行っていくためには、対象者の人数を知ることから始める必要があるということで、それを行った上で研修の企画を行っていくほうがよいのではないかと結論に至りました。

そのため、21年度の開催は難しいので、21年度は研修の企画を行って、研修の開催は22年度にしていきたいということになりました。

対象者の人数調査は、本来ならば県全体の看護師に対して調査を行うのが良いが、時間的、予算的な問題もあり、今回は行わず、様々なところで行われている緩和研修、がん研修から情報を得ようということになりました。まずは看護協会で行われているがん関係の研修の参加者の把握と、滋賀県緩和ケア研究会と、京滋の緩和ケア研修会の参加者の情報の把握を行うことで、どのような人の関心が高いか、地域や施設による差はないか等の情報を得ることで、研修企画に生かせるのではないかと考えました。

京滋緩和ケア研究会の方から、所属施設や職種を伺っています。

滋賀県の看護協会の研修参加者の調査については、ここの部会の部会員でもあります、済生会訪問看護ステーションの九里さんに連絡をとり、そこから滋賀県の看護協会会長宛に依頼していただき、現在、返事をお待ちしている状況になっています。

今後、がん協会からの情報があり次第、来年度の実施に向けて、もう一度、メンバーによる協議を行って、次の年度末に行われる会議には、だいたいの概要を提出したいと思っています。

講義形式と実習が必要だろうということで、実習を行っていただけるといいかなと考えていますが、期間も含めて具体的には決まっていないというのが状況です。

(堀部会長)

イメージ的には、緩和ケアの病棟の研修がいるのではないかと考えているのですが、そうすると、拠点病院では、成人病センターと彦根市立病院しか緩和ケア病棟はありません。ヴォーリズ記念病院や大津市民病院などにも、協力をお願いしないとできないという気はしています。

ヴォーリズ記念病院さん、独自に地域の看護師の研修などやってらっしゃいますか。

(ヴォーリズ記念病院 細井部会員)

特にやっていないです。東近江の在宅推進のほうから頼まれて、少しやったことはあります。

(堀部会長)

うちは今年度に、地域の訪問看護ステーションの看護師に何人が来ていただいた。それ以外に県全体の看護師さんにオープンにしてやっているというものはないと思います。

(成人病センター 辻森部会員)

今はないのですが、今回のこの話し合いでも、実習は必要だろうということになっているのですが、学生の実習ですとか、認定看護師の教育課程の実習とかしておりますので、その辺が重ならないように、気をつけて組んでいきたいと思っております。

(堀部会長)

出来るだけ、受け入れていきたいなと思っております。長すぎるのは、非常に参加が難しいので、1週間程度で、そのうちの二日間は講義で、後の3日間は研修してもらう形が考えられます。基本的な緩和ケアの考え方とかケアの仕方を習っていただくためには、それだけでも、学んで頂けるものは大きいと思います。

できるだけカリキュラムを作っていて、緩和ケア病棟を持っている病院に是非、協力していただければと思っております。

病棟は4カ所なので、実習となると10人、20人は難しい。5人くらいまでが妥当。緩和ケア研修は、がん対策推進計画に位置づけられていますので、ある程度実績を残す必要がある。

それについては、看護師さんのメンバーに、次の部会までにはカリキュラムや、どこで何をやるかなど、決めていただければと思います。

3 緩和ケア講習会・講演会

(堀部会長)

次に、緩和ケア講習会・講演会の件ですが、医療者向けは重なってもやむをえないが、一般市民向けの公開講座や緩和ケアの講演の日程が、重ならないようにしたい。20年度に、公立甲賀病院と市立長浜病院のフォーラムの日程が、重なりました。そういうことがないように、調整したいと思っている。

緩和ケア推進部会の公開講座である22年度の世界ホスピスデー県民公開講座は、10月9日に開催する予定です。また4月にも一般向けの緩和ケア講演会を開く予定です。他では特に予定しておられるところはないですか。

(ヴォーリズ記念病院 細井部会員)

講演者の都合もあり、それが第一ですから。重ならないようにというのも難しい場合があります。

(堀部会長)

できるだけ、重ならないように是非、計画を立てていきたい。

(ヴォーリズ記念病院 細井部会員)

ヴォーリズ記念病院がんセミナーは、一般公開で、1月、2月、3月の3回実施します。

内容は緩和ケアだけではなく、例えば、一般の肺がんの話とか。

(堀部会長)

講演会情報は、研修調整部会で集約するのですか。

(部会事務局)

緩和ケア研修のことについては、緩和ケア推進部会で調整をするということになります。
ただ、緩和ケア推進部会でまとめられた情報を、研修調整部会に持っていく等、部会間の調整も必要なため、この部会でまとめられた日程は研修調整部会に伝えます。

今回の部会に提出いただいた「ちらし」および「調査表」から主な講演会等の抜粋

H21/10/10「世界ホスピスデー記念県民公開講座」 受講 200 名 緩和ケア推進部会

H21/10/16「緩和ケア講演会」公立甲賀病院

H21/10/25「ターミナル講演会・がんセミナー」(近江八幡文化センター)ヴォーリス記念病院

H21/11/8「がん研究、がん診療 10 年間の進歩」成人病センター

H21/11/21「がん」講座(大津市民会館) 大津赤十字病院

H21/11/23「がんフォーラム」(ひこね燦ぱれす)彦根市立病院

H21/11/28「5 大がん地域連携パス発表会」(ピアザ 淡海)地域連携部会

H21/12/7「緩和医療講演会」 大津赤十字病院

H21/12/11「緩和ケア研修会」市立長浜病院

H22/1/9「昭和大学における緩和ケアチームの活動状況」(さくら)滋賀緩和ケア研究会

H22/1-3「がんセミナー」ヴォーリス記念病院

H22/2「がん医療講演会」公立甲賀病院

H22/3/12「緩和ケア研修会」市立長浜病院

H22.10.9「世界ホスピスデー記念県民公開講座」緩和ケア推進部会

(堀部会長)

大きながんフォーラムとか、公開講座は重ならないほうがいい。もし計画がありましたら、事務局にご一報いただいて、研修調整部会にも要請して、この日は避けてほしいということを情報提供出来るので、早めにご連絡いただけるように、お願いしたいと思います。

緩和ケアの研究会とも重ならないほうがいいですね。

情報を是非、共有しているんなところに流したいと思います。研修調整部会と連携しながら、緩和ケアに関する情報は、是非みんなで共有出来るようにし、わかれば、メールで皆さんにお知らせします。

ホームページを作る話が、あったと思うが。

(部会事務局)

計画はしています。先程の緩和ケアの医師等向けの研修等も、ホームページにアップして、どこの病院でも見られるようにしたいと思う。

4 緩和ケアチーム 5 緩和ケア外来 6 緩和ケア病棟 7 地域連携 8 緩和ケア地域連携パス

(堀部会長)

次第の 4 ~ 8 (調査表の項目)について一括説明

緩和ケア外来をどうしているかとか、まだ情報をいただいているところもあるので、メールでい

ただきたい。大津赤十字病院、公立甲賀病院、彦根市立病院、市立長浜病院については、この一覧表を見ていただいたら、いつ、誰が何をしているかというのが、だいたいわかると思います。それを参考にさせていただきたいと思います。

まだ、ご回答いただいていないところは、是非、回答をお願いします。

あともうひとつ今日お話ししたいのは、成人病センターと守山・野洲医師会で作った地域連携パスです。人間の絵が書いてあるものと、緩和ケア地域連携クリティカルパス、在宅、患者さんご家族、医療関係者用のものです。

これを今、成人病センターでは試験的に少しずつ、運用を開始しています。

最初に人の絵が書いてある方は、病病連携で地域連携パスと書いてあります。他の病院から当病院の緩和ケアに紹介していただく時には、これだけの情報を提供してくださいというパスです。

もう一つは緩和ケア地域連携クリティカルパスの在宅の方で、在宅に移す患者さんについての情報を、病院側から記入して、地域の開業医さん、訪問看護ステーション、介護ステーションという所に情報提供するというものです。

最後の紙が、患者さん、家族用に渡すパスです。退院の時には、患者さん・家族用にはいちばん最後のものであり、地域の開業医さん、地域連携とか、訪問看護ステーションに渡すパスがこれです。こういうふうに分けて、3種類作っています。

少しずつ、運用を開始しているが、病病連携パスで紹介していただくと、かなり漏れが少なく、情報が手に入りやすいと考えています。

病状経過とかよく紹介状で書いてあるが、どこまで告知をしたかというのは結構抜けているところがあります。そういったことがないように、ある程度受ける側として、いろんな情報が受け取れるようなパスにしていきたいと思っています。

今日これを出したのは、もしこれを使ってみたいというところがあれば、使っていただいて構わないので、試みに使っていただくとありがたいかなと思って出しました。

パスについて何かご意見ございますかね。

(部会員)

反応はどうか。

(堀部会長)

出す側としては、面倒なところがあるかもしれませんが、ほとんどは、看護師とかソーシャルワーカーとか、記入出来る部分で、医師の分を少なくして、負担を軽くしています。しっかり書いていただくと、すごく患者さんの情報がよくわかるものになったと思っています。

それから地域連携用は、作ったばかりでまだ運用していないので、これから地域の先生方に言っていきたいと思います。こういうものを作って、少しずつ運用を始めていくということを、情報として提供しておきたいと思います。もしよろしければ、各病院でも使っていただければありがたいと思います。よろしいですか。

その他は、何かありますか。

(大津赤十字病院 三宅部会員)

医師の緩和ケア研修会のことなのですが、以前の会の時に、どの病院で開催するにしても、ファシリ

テーターを、他の病院の方に来てもらってという話がありましたけれども、来年度に関しては、そのあたりはどうか。

（堀部会長）

同じように、ファシリテーターが足りないとかいう時には、各病院にお願いしてもよいと思うが、今まで、各病院、自前でほとんど頑張ってもらっていただいているので、あまり頼まなければいけないことは、少ないと考えています。

ただ、精神科医だけは大変ですよ。今年は、黒丸先生と津田先生が指導者講習を受けていただいたので、精神指導のところで、黒丸先生や津田先生にお願い出来るので、今までより少し余裕が出来たかなと思っています。

来年度は、精神症状については半日だけの参加で済みますので、負担は少し軽くなると思います。その他の講師は、各病院で自前で講師を用意してもらっているのありがたいと思っています。

（大津赤十字病院 三宅部会員）

心配していることのひとつですが、例えば、Aという病院は、専門医が山のようにいて、呼吸器とか消化器とかすべての専門医で固めて、かなりレベルの高いものが出来ると。B病院は、専門でない人が、いくつもの分野にまたがって話をするとすると、たぶんばらつきが出てくるのではないかと思う。ただやればいだけなら、それでもいいかなと思いますが、ある程度のレベルのものまで求めるのであれば、基本、消化器だとか、呼吸器だとか、そういう以外にも放射線治療とか、専門医を全部固めてやるほうがいいとか、最低ラインの線引きでやっておいたほうがよいのではないかと思う。しかし、それをやっていると足りない病院がいくつかあるかもしれない。

（堀部会長）

それは各病院の判断に任すしかないかなと。お宅の病院はレベルが低いなんてこと、絶対言えないですし、わからない。自分の病院で人材が足りないと思ったら、他の病院にお願いするとかしていただきたいと思います。

（ヴォーリス記念病院 細井部会員）

何を教えるかというのは、ある程度、決まった教則本みたいなものはあるのですか。

（堀部会長）

はい。あります。

（ヴォーリス記念病院 細井部会員）

その枠に外れないようなことを言っておけば、いいんじゃないか。どこを強調するかとかいうことはあるにしても。

（甲賀病院 沖野副会長）

スライドの中身は決まっていますから、あまり外れたことは知識があってもなくても言えないですね。ですから、広く浅く意識づけの段階かなと思う。来年度くらいになったら、少し変わってくるかもしれ

ない。

（堀部会長）

意識付けと言われたが、やはり全体のレベルを少し上げるというのが目的なので、あまり専門的なところまで、詳しくというのは求められてはいない。

（ヴォーリズ記念病院 細井部会員）

受講者の反応はどうか。

（堀部会長）

アンケートをとっているが、よくわかったというのが、結構多い。あとは、ロールプレイが難しかったとか、一般的な反応が多いです。他に何かありませんか。

（堀部会長）

大津市民病院やヴォーリズ記念病院から来ていただく場合には、謝礼を払います。各拠点病院で負担していただくことになります。

（部会事務局）

拠点病院の先生に講師を頼む場合にも、謝金をお支払いするという取り扱いになりますのでよろしくをお願いします。例えば、滋賀医大の森田先生に来ていただくなら、払うということです。

成人病センターのような県立の病院に関しては、無償で結構なのですが、他の病院については、一応お支払いするという方向です。

（堀部会長）

ということですので、他の先生を呼んだ場合は費用が発生するという点、その点を留意してください。よろしいでしょうか。他に何かありませんか。

（部会事務局）

緩和ケアをテーマにした講演会として、10月9日ホスピスディ記念県民公開講座を、近江八幡のアクティ近江八幡で、開催しました。堀先生のほうから、来年の場所等、考えたほうがいいのかとも言われていました。もしうちに来てとかいうところがありましたら、調整よろしくをお願いします。

（堀部会長）

今までは、成人病センターと彦根市立病院とヴォーリズ記念病院と大津市民病院の4病院で担っていましたが、来年度は、他の拠点病院さんにも協力いただけたらと思っていますのでよろしくお願いします。

少しだけ、時間が過ぎましたけど、これで終わりたいと思います。どうもご苦労さまでした。